

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 416 回 イイケン先生、ボケた??

2011.4.24

今年還暦と言うことは、そこそこ、永く生きてきた。

最近特に「あれっ?」と思う行動をしてしまい、後で自ら笑ったりしているが、笑っているうちはいい。笑わないで、平気で過ごすようになったら、ボケの始まりというのだろう。

我が家の寝室は衣装ダンスと、その横に小さな冷蔵庫が置いてある。寝酒用のビールとワインがいつも冷えていて、チーズ等の、ちょいとしたつまみが入っている、お気に入りの冷蔵庫だ。先日急いで出かける用意をしている時、「おーい、靴下がないぞ～」と家内を呼んでいたが、何と冷蔵庫を開け、一生懸命探していた。当然靴下は、隣の衣装ダンスである。一瞬の出来事だった。すぐ気がつき「いやあ、あった、あった」と家内が来る前に平然と言っただけ、事なきを得た。

僕の場合、晩酌の「豆腐」は付き物だ。白い小皿に豆腐を運び食べようとした。その豆腐が皿から墜ちた。何と、豆腐はすでに、白い小皿に入っていた。

先般 iPad で小説を読んでいる、かっこいいおじさんがいたが、ページをめくるのに、指を舐めていた...と、そこまではいっていないが、昔は、巷に流れる音楽は、クラシックだろうが、ジャズだろうが、演歌でも、ロックでさえ曲名を言えた。

今は「そう、これこれ、なんていう曲だっけ...」で終わってしまう。

テレビに出てくる若い男優(女優もそうだが)、殆ど同じ顔に見えて仕方がない。みんなコミック顔、だから見るたびに「この人の名前は...?」、家内は懲りずに何度も教えてくれる。

イイケン先生がボケた...?

こんなことが頻繁に起こるようでは、間違いなくそうかもしれない。モバイルを持ち歩くようになったら、相手の電話番号、一切覚えない。ナビが出来てから、道順も記憶する必要がなくなった。パソコンは「かな」を入力するだけで、漢字が出てくるので、漢字を、すっかり書けなくなった。世の中「便利」という名の元に、ボケを助長させる近代兵器のオンパレードかもしれない。

デジタル化は、認知症の巣窟と言ったら、きっとひどく叱られるだろう。

言ったこと、やったことを、たまに忘れてしまう。これは大問題。だから極力文書に残すことにしている。とにかくメモ魔に徹し、アナログの、バイブル型システム手帳を3冊、常に持ち歩いている。メモリーも720ギガバイトの超小型外付けタイプ、とにかく文書をファイリングしている。

「ボケては堪らん」と、ブログも始めた。毎日、しかも2~3テーマ書くことを日課とし、きつく自分に厳命した。ブログがボケ防止になるのか、科学的根拠は定かでないが、これも目下、継続中である。

誰かから「タバコとコーヒーはボケ防止になる」と聞いた。タバコはいくらJ T (日本たばこ産業) が値上げしようと、意地になって吸い続けている。コーヒーも1日5杯を目標に、飲み続けている毎日だ。これもボケ防止だと弁解しつつも、実は痰(たん)が切れず「咳(せき)」が辛い。ボケてから肺がんになるほうが、まだ、マシかもしれないのだ。

いや違う、ボケるのが嫌なんだから...、と考え直し、また一服、紫煙が立ち登っていく。